

クラウドはプラットフォームレイヤでのサービス競争が加速

クラウド

ICTシステム環境の最適化

デジタルビジネスの進展と、IaaSレイヤのコモディティ化により、PaaSレイヤを中心としたプラットフォームレイヤでのサービス拡大が進んでいます。PaaSの領域では、オープンソースのPaaS基盤のCloud Foundry、そして、OpenShiftなどが、企業の大規模WebサイトやIoT基盤などの開発運用基盤として普及しつつあります。今後、IaaSレイヤでのサービスの差別化が難しくなり、PaaSといった高いレイヤの領域での競争が加速していくでしょう。

1つのOS環境でアプリケーションの実行領域を複数に分割して利用可能なコンテナの動きも注目されます。代表的なコンテナ型仮想化ソフトウェアとして、Docker社が開発している「Docker」があります。Googleがオープンソースとして公開しているDockerを管理するKubernetesへの注目度も高まっています。今後は、本格的にコンテナサービスが提供され、ユーザー企業においても、開発環境だけでなく、よりエンタープライズの領域に採用され始める年になるでしょう。

クラウドサービスの多くはAPI (Application Programming Interface) が公開されています。複数のサービスの機能を一元的に管理可能なAPIゲートウェイの活用が進むことで、他社も含めたシステムやサービス連携が進み、異業種連携など高いビジネス価値を創出するAPIエコノミーが形成され、クラウド市場の成長の後押しをするでしょう。

クラウドサービスでは、「マイクロサービスアーキテクチャー」と呼ばれるアーキテクチャーモデルの採用が進んでいます。クラウド事業者の提供するサーバー、ストレージ、データベースなどの複数で構成されたコンポーネントを疎結合で動作することで全体の機能を実現します。これにより、クラウド事業者にとっては、コンポーネントごとの開発が可能となり、サービス開発の迅速性を高めることができます。

ユーザー企業や開発者は、マイクロサービスによって構成されたクラウドサービスの各コンポーネントをAPI指向でサービス連携させ、独自のアプリケーション開発やシステム構築など可能となり、サーバーの存在を意識することなく環境を構築できる「サーバレスコンピューティング」の流れも進んでいくでしょう。

各クラウド事業者は、IoTや機械学習のプラットフォームとしてサービス提供を進めています。IoTでは、AWSの「AWS IoT」、マイクロソフトの「Azure IoT Suite」や「Azure IoT Hub」、国産事業者では、NTT Comの「IoT Platform」、さくらインターネットの「さくらのIoT Platform」などがあります。NTT Comの場合、セキュアなIoT環境をワンストップで提供するFactoryパッケージなど業界別に提供しています。

AIや機械学習では、AWSが「Amazon AI」、マイクロソフトの「Azure Machine Learning」、Googleの「Cloud Machine Learning」といったように、2017年は、IoTや機械学習の機能をクラウドサービスとして提供する動きが本格化していく年になるでしょう。

サービス紹介

》 IoT Platform

IoTインフラをパッケージ化した形で提供することにより、手早く容易にIoTを取り込むことができます。また、製造業工場群向けの「Factoryパッケージ」や産業機器等製品の遠隔監視や保守、利用状況分析を実現する「Machine Cloud」、営業車両の運行管理を手軽かつセキュアに実現する「Vehicle Manager」と、業界・用途別のメニューを用意しています。

クラウド業務で課題をお持ちのお客さま

フリーダイヤル/ナビダイヤル回線から便利な機能まで、お客さまニーズに合わせた最適なソリューションをご提案いたします。



0120-106107

受付 | 9:30 ~ 17:00
時間 | (土日祝日を除く)